

会 議 録

会 議 名	第 1 回山陽小野田市G X推進協議会	
開 催 日 時	令和 6 年 1 1 月 1 2 日(火曜日) 1 0 時 0 0 分から 1 1 時 0 0 分	
開 催 場 所	市役所本館 3 階大会議室	
出 席 者	梅田会長、桶谷副会長、塩田委員、竹永委員、池上委員、堀川代理委員、堀委員、有田委員、上野委員、吉長委員、西岡委員	
欠 席 者	なし	委 員 数 1 1 名 出席者数 1 1 名(代理 1 名含む)
事務担当課 及び職員	(市民部環境課) 山本部次長兼課長、湯浅主幹、河村主査、原野主査、岡田主任、佐々木技師 (経済部商工労働課) 中村主幹、久保主任 (企画部企画課) 木藤係長、松岡主任主事	
会 議 次 第	1 開会 委嘱状の交付 2 市長挨拶 3 委員紹介 4 協議会設置要綱及び副会長の選任について 5 山陽小野田市G X推進指針について(概要説明) 6 山陽小野田市G X推進アクションプラン骨子案について(概要説明) 7 他市の取組内容事例紹介(下関市、山口市) 8 G X推進に向けた取組に関する意見交換 9 次回の会議日程等について 2月上旬予定	
会 議 結 果	4 協議会設置要綱及び副会長の選任について 事務局一任により、塩田委員に副会長選任の依頼。 委員全員の拍手により、塩田委員を協議会副会長に決定。 (主な質疑) 質疑なし。 5 山陽小野田市G X推進指針について (主な質疑) 質疑なし。 6 山陽小野田市G X推進アクションプラン骨子案について	

	(主な質疑) 質疑なし。 7 他市の取組内容事例紹介について (主な質疑) 質疑なし。 8 GX推進に向けた取組に関する意見交換について (竹永委員) 削減目標について、下関市では2050年なのに山陽小野田市では2030年となっている。そのあたりはどうか。 (事務局) 今回策定するアクションプランでは、まずは2030年に46%の削減目標達成を目指して取り組むこととしている。 (事務局からの補足説明) 具体的な取組内容の提案ではなく、現状の取組内容などの情報提供でもいいので、様々な意見をいただきたい。 (堀川代理委員) 小野田港湾脱炭素化推進協議会は、本市の産業部門におけるCO2排出量が全体の約90%を占めており重点的に取り組む必要があるという考えのもと集まっている。 2050年の脱炭素に向け、企業については技術力でカバーしていこうと具体的に明らかにし、進めていこうと考えている。 (梅田会長) 企業から行政に対して、どのような取組をしてほしいか意見があれば教えてほしい。 (堀川代理委員) 経済産業省が出している中小企業の設備省エネ化に向けた補助金があるので企業に対して公募しようと考えている。 国からの補助金で二分の一、さらに市からの補助金で上乗せして四分の一の補助金があれば設備の省エネ化に取り組みやすくなるのではないかと。 (桶谷副会長) 市としてどう支援するのか。補助金なのか、セミナー開催による側面的な支援となるのか、方法として様々なものがある。
--	---

(竹永委員)

産業部門の CO2 排出量は大企業と中小企業でどちらの割合が多いか。エネルギーの種類別でも分かれば教えてほしい。

(事務局)

産業部門全体で CO2 排出量が約 240 万 t-CO2。

特定事業者に該当する企業からの排出量が約 170 万 t-CO2。

石油精製業が約 76 万 8 千 t-CO2、電気業が約 32 万 t-CO2、窯業・土石製造業が約 24 万 9 千 t-CO2、鉄鋼業が約 22 万 t-CO2、化学工業が約 14 万 5 千 t-CO2 となっている。

(梅田会長)

山口東京理科大学と市内の企業で連携して何か取り組みされているものはあるか。

(池上委員)

地元企業との共同研究で石油中心のエネルギー構造を水素などの新たなエネルギー構造へと変える研究開発の支援をしている教授もいるが、大学全体としてどうするかは決まっていない。自身の研究として二酸化炭素の利用というものをしており、今後企業と連携して支援できることがあればと考えている。

(塩田副会長)

アクションプラン作成にあたり、下関市、山口市は本市と産業構造、町の成り立ちが違うので参考となるような自治体の資料を用意してほしい。

絶対値で減らさないといけない。そのためには産業部門を重点的に取り組んでいかないとはいけない。

(事務局)

北九州市など大きな自治体ではアクションプランを作成しているところが多い。本市は努力義務であり、参考になりそうな自治体も同様に作成していないケースが多い。今後参考になる自治体があれば資料として提供する。

(堀川代理委員)

市民の環境意識向上が企業の取組にも繋がっていくと思う。産業部門で働く従業員も市民であることを忘れないでほしい。

	(梅田会長) 市民一人ひとりの意識改革も1つの目的である。目に見える効果は少ないかもしれないが、環境への意識を変えることが全体的にみると効果があるのではないか。 9 次回の会議日程等について (主な質疑) 質疑なし。
--	--